

市民病院運営審議会

市長、赤字削減言うなら

リフォーム推進はまったなし

ソファ・ベンチ・トイレ床もボロボロ

2月3日、市民病院運営審議会が開かれ傍聴しました。

市内5医師、11団体、2名の知識経験者18委員のうち16名が参加。2020予算案の審議とともに、亀岡病院長からの「地域医療構想」についての説明が行われました。

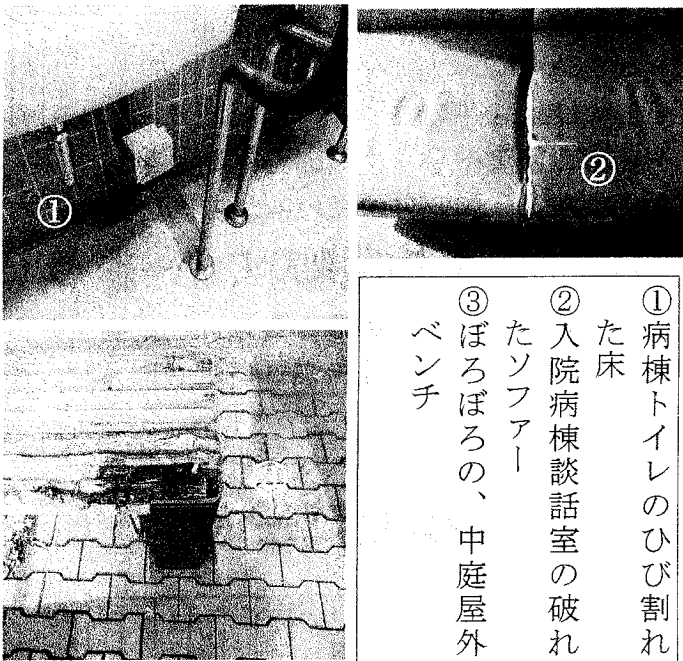
ねぎた市長は「経営的に年10億円の赤字を4〜5億円に市内と、市本体がおかしくなる」と発言。具体的な、赤字解消策もしめさず病院まかせの口ぶりでした。

しかし、《左写真》のように、病棟トイレの床ひび割れ、入院病棟の談話室ソファは破れ、中庭の屋外ベンチは腐敗してボロボロ状態です。市外に民間病院新設もされる中、これでは患者さんを迎える状態を放棄しているようなものです。

なぜ1年先送りか

施設の維持管理は市の責任です。

市議会とも確認しあつて、築30年経った碧南市民病院をリニューアルする予算2019年度約5億円を、未使用にしたのはほかならぬ市長自身です。赤字解消の現場の苦労も知



①病棟トイレのひび割れた床
②入院病棟談話室の破れたソファ
③ぼろぼろの、中庭屋外ベンチ

らず、「病床削減の必要なし」との西三河医療圏の合意も聞かず『費用対効果』の論理を病院にも当てはめ、市民の命よりお金優先。国の顔色優先ではありませんか。

「大病院優先だ」亀岡院長の説得力

亀岡病院長は、パワーポイントを使って、厚労省のデータの分析をしました。

①診療実績は1ヶ月のみのレセプトデータでは出来ない。

②評価項目も、救急では大腿骨のみをカウント対象にしている。

③地域の病院の絶対数で評価すべきで、人口1人当たり、医師1人当たりではこの地域は過剰でなく、地理的にも碧南市民病院は西三河各病院とバランスの取れた配置。

と、国の評価が大病院優先と指摘しました。

「再編統廃合はしません」と明言を

市長のやるべきことは明確です。市民病院を見回り施設の現状把握を行う事。看護師、医師、患者、住民に「再編統廃合しません」と明言し、リニューアルに即着手することです。そのことが最大最適な国への反撃になります。

車イス用トイレ何とがして

市民病院に入院してとても困ったことは、入院病棟に車イス用トイレが各階2カ所しかないことです。入院中は車イス移動を余儀なくされ普段は使ったことがないので、腕が痛くなってしまう。やっとのことで遠くのトイレに行くと、何人かが待っている状態。高齢者には、長く待つことはつらいです。病院リニューアルで、病室ごとに車イス対応のトイレの計画があると聞きました。入院患者みんなが実現を願っています。点滴機のはいらない病棟トイレなど市長も直接見れば、「なおさねば」と思うのでは。(86歳 女性)

医師確保の努力も顕著

日本共産党は、医師修学金制度を提案。現在5年生1名6年生2名に。2年間の研修医をへて2022年には医師確保となります。全国にも発信して成功しています。医師1人で年1億円の収益と言われる中、市長、事務局、議会、病院スタッフあげての努力を。

碧南市民病院
亀岡病院長のあいさつ

(病院ホームページより)

《前略》

少子高齢化が急速に進行し、2025年には団塊の世代が後期高齢者になることから将来の人口構成を見据えた医療体制を構築する事を目標に「地域医療構想」の策定が進められています。人口が減少する、必要な病床数は少なくなる、病床を削減する、だから公立病院の病床数を減らせ、という非常に短絡的な考えで出されてしまったのが今回の病院リストです。地域の実情や個々の病院の事情は全く考慮されず、データの解析も一方的で不完全なものでした。

当院もそのリストに名前が挙がってしまいました。内容をよく見れば当院は診療実績を上げており地域に必要な病院であることがわかります。この地域の医療圏の病院間の会議でも碧南市民病院の実績と必要性が認められています。

財政を最優先し目先の利益だけを優先してゆけば、異常気象と同じようにいずれ医療の体制全体が崩壊しかねません。社会構造の変化に対応するには、地域の実情に応じた現状分析と対応を進める必要があります。碧南市民病院は、慢心におちいることなく、今後もこの地域での役割を果たすべく職員一同努力をしております。《後略》

市民病院を守れ 再編統廃合リストの白紙撤回を 日本共産党が各会派に意見書提出を要請

3月議会で碧南市議会からも意見書を

3月議会の議会運営委員会が、2月10日に行われます。日本共産党は、公立・公的病院424（その後7減20増で437病院に）に一方的に、再編統廃合リストを公表したことに対して、白紙撤回を求める意見書を国に提出するために、各会派に共同の呼びかけを行いました。

全国の指定された自治体からも意見書が提出されている中で、碧南市議会が黙っていることはできません。

市民のいのちと健康を守るために、議会と議員の役割発揮が、今こそ求められています。

市民からも請願が

また「市民病院を考える市民の会準備会」からも請願が提出されます。日本共産党は紹介議員になり採択のためにがんばります。



愛知県社保協の12月7日「地域医療構想」学習会の様子と12月6日の愛知県への要請項目

要請項目

1. 愛知県として、「対象病院名」の公表について抗議するとともに、撤回を求めること。
2. 現在進められている「地域医療構想」調整会議においては、今回の限られたデータに基づく指標を前提とせず、真に地域医療を拡充・強化する計画を推進すること。
3. 病床等の対応について、県の権限強化を発動することなく、慎重な対応を行うこと。
4. 「地域医療構想」の具体化に当たっては、参加・公開の原則に立ち、広く県民の意見を反映させるとともに、関係する議会等での審議・承認も含めた民主的な手続き対応を行うこと。

公立・公的病院の再編統合計画に関する意見書（案）

厚生労働省は昨年9月26日、市町村の公立病院と日本赤十字などの公的病院の424病院について「再編統合について特に議論が必要だ」とする分析をまとめ、病院名を発表した。重症者に対応する「高度急性期」病棟などがある全国1455病院を分析し、がん治療や救急医療の実績が少なかったり、車で20分以内に似た診療実績のある別施設が存在したりする病院などをリストアップしたものである。

しかし、診療実績は、地域の人口や年齢構成、その病院の置かれている地方の特性を抜きに画一的に論じられるものではない。診療のニーズがあっても、医師が確保できず、患者を受け入れられない事情もあるからである。豪雪寒冷地かどうかなどの考慮もなされず、車の移動時間を尺度にするのも不適切である。このような基準で公立・公的病院の再編統合を進めれば、いまでも医療提供体制が十分整っていない現状におかれている地域医療の疲弊に一層拍車をかけることは必至である。

全国知事会など地方3団体は「地域住民の不信を招いている」とする意見書を出した。厚労省が開始した各地の説明会でも、病院側などから「病床削減すれば住民にとって医療サービスが落ちることになる」、「地方創生に相反する」という声が相次いでいる。

厚労省は「機械的な対応はしない」、「強制はしない」と繰り返しているが、公表した病院名リストの撤回を求める声には、応じようとしていない。対象病院の再編統合についての議論を本格化させ、来年9月までに結論を求める方針も変えていない。

住民や医療現場、地方自治体の声を置き去りにして、公立・公的病院の再編統合を無理に進めることに、道理はない。

よって国におかれては、再編整備の対象として名指した病院名の公表を撤回するとともに、患者、住民、医療現場をはじめ地域の実情を踏まえた公的医療供給体制のあり方について検討されるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年 月 日

碧南市議会議会

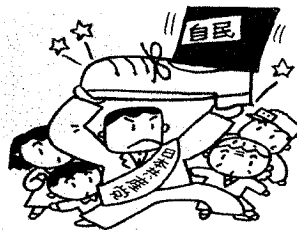
戦争法廃止・安倍改憲 発議許すな 19日行動

2月19日(水)

午前11時～12時

ヤマナカ前にて

国民総がかり行動実行委員会



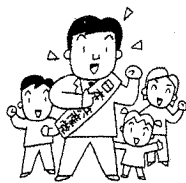
碧南市議選3議席勝利「桜を見る会」徹底追及 野党連合政権

日本共産党演説会

2月23日(日)午後2時～

場所：碧南市役所レストラン2階

(碧南市松本町28)



ごいっしょに実現しましょう

- ★1時間毎のくるくるバス。高齢者タクシー券
- ★市民病院を守る
- ★高校生までの医療費無料化
- ★住宅リフォーム、店舗改修、空き家活用補助
- ★新婚で入れる市営住宅、民間家賃補助
- ★地震対策



日本共産党碧南市議団



山口はるみ 岡本守正 磯貝明彦
☎42-8940 ☎41-5357 ☎48-2718

三度山町2-70-4 笹山町6-29 若松町3-253

お気軽にご意見ご要望を